



# おしのっ子だより

学校教育目標 『心豊かで 自ら学ぶ たくましく活力のある子どもの育成』

## \* 修学旅行に行ってきました！(6年生)

10月10日の7時に出発！『佐賀県立宇宙科学博物館』は、佐賀発見ゾーン・地球発見ゾーン・宇宙発見ゾーンの3つのゾーンに分かれた体験型の施設でした。電磁誘導テーブルや風のテーブルで不思議な現象に驚いたり、スペースサイクリングやリニアモーターカーなどで、ここでしか体験できないことにドキドキわくわくしたり、楽しく過ごせました。

そして、長崎県に入り、昼食の後は『長崎原爆資料館』です。長崎型原爆ファットマンの実物大模型とともに、原爆投下直後の長崎の町の惨状を再現し、原爆の破壊力や恐ろしさを伝えるコーナーに驚きを隠せませんでした。11時2分を指して止まった柱時計や真っ黒になったお弁当箱、ぐにやりと曲がったかわらや表札、そこに存在していたはずの人や物干しざおの影だけが残った壁など、実物を見て改めて実感したことと思います。



もし、戦争がなければ、こんなことにはならなかったのに。

核兵器のない平和な地球にするためには、どのようにしたらよいのか、考えさせられたのは、そのあとの平和学習の『被爆者講話』です。自分も姉もそして自分の娘も、原爆の放射能のために命を奪われたり病に侵された話をしてくださいました。「戦争がなかったら、原爆がなかったらこんなことにはならなかったのに」という言葉がとても胸に突き刺さりました。6年生は、真剣に平和について考えていました。

## \* 子ども理解ができるようになるために・臨床心理士による講演会より

子どもは一人一人違います。「みんな違ってみんないい」それぞれ違うから知り合い、分かちあい、伝え合うことが必要になっていくのです。先日、臨床心理士の先生から、子ども理解の為に3つの事柄を知ることが重要というお話がありました。一部ご紹介します。

「注意・集中」力には、4つの種類があります。

- 1、**持続的注意**・・・ある刺激に注意を向け続ける力(計算ドリルをし続ける力など)  
困り・・・すぐあきらめる。
- 2、**選択的注意**・・・多くの情報から必要な情報だけを選択する力  
(人ごみの中で話し合い手の声だけを聞きとるなど)、  
困り・・・探し物がみつからない。だれの話の聞けばいいのかわからない。
- 3、**分割的(分配)注意**・・・1つの刺激に注意を向けつつ、別の刺激にも注意を向ける力  
(話を聞きながらノートをとるなど)  
困り・・・音読はするが内容が全く理解できない。電話を聞きながらメモすることができない
- 4、**転換的注意(抑制機能)**・・・目的と関係ない情報処理や不適切な行為を押さえる力  
(周りの音に気づいても課題をこなすなど)、  
困り・・・少しの音や動きに反応して気が散る。

子ども理解の視点として、

- ①子どもの行動の背景に「注意・集中」の困りがないか振り返る。
- ②子どもの「注意・集中」が適切に保たれている環境なのか確認をする。
- ③これから取り組むことは、どのような「注意・集中」の力が必要なのか事前に考える。

これらを知るだけでも、子どもを理解できるようになるということです。どこに困りがあるのか、自分の子ども、地域の子どもたちも含め、周りの大人が考えて指導することは大事ですね。